

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 170 11月号

2019年11月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL (0791) 62-0469

新宮図書館 TEL (0791) 75-3332

揖保川図書館 TEL (0791) 72-7666

御津図書館 TEL (079) 322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>

電子図書館へは、
右のQRコードから
(<https://www.d-library.jp/haritei/>)

播磨科学公園都市圏域
定住自立圏電子図書館



読書と私 No.160

「ありがとう！図書館」

新宮町 賀川 栄

池内^{おさむ}紀さんの訃報を新聞で知りました。著作『二列目の人生 隠れた異才たち』の大上宇市さんの取材に、新宮図書館へ来られたご縁で、お話を聞く機会があったのです。博学、博識、引き出しいっぱい。知的好奇心の塊。でも、最近の『すごいトシヨリ BOOK』は、現実的で、池内さんもお年を取るんだと思いながら、しみじみと読みました。

そして、九州の豪華寝台列車「ななつ星」の椅子を手がけた、佐用町に工房がある迎山直樹さん。迎山直樹さんの講演会ではその椅子にも座らせていただきました。新宮町出身でドイツ在住の岡本朋子さんのお話「翻訳家が住んでみたドイツ」も聞きました。お話の会だけでなく、佐久間佳子さんの作品展や、図書館を利用している方たちの様々なジャンルの作品展など、私にとって図書館は、本を借りるというだけでなく、生活に潤いを与えてくれる有り難い存在なのです。

図書館へ行くと、気になる健康の本。98歳の義母の介護関係の本。旅に出られないから、旅の本、写真集。変わったデザインはないかと、編み物、洋裁の本。作れそうにないけれど、食べてみたい料理の本、お菓子の本。ヒアリングを上達させたい思いで、英語の本。茶道関係の本。あっ、それから雑誌の棚は外せません。お気に入りには、『芸術新潮』、『Casa』、『家庭画報』。最高の情報でカバンはいっぱい。嬉しくなります。

そして最後は作家別の棚。澤田瞳子『与楽の飯』からスタートした、私の奈良探訪の本探しです。司書さんはアドバイスをしながら、時には閉架書庫からも探しだしてくれます。そして、図書館を出るときには、元気いっぱい！さて、次は、どんな本たちに出会えるかな。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。



『すごいトシヨリ BOOK』
池内 紀 著 毎日新聞出版

『顔に魅せられた人生 特殊メイクから現代アートへ』

辻 一弘 著 宝島社 252ページ 2018年7月刊



本書は、2018年に第90回アカデミー賞メイクアップ&ヘアスタイリング賞を日本人として初めて受賞した著者が、いかにして現在の地位を築き上げてきたかが語られている。著者は、京都に生まれ、家庭の事情で孤独な幼少期を過ごした。小学生の頃は『ファーブル昆虫記』が好きで、セミやトンボなどを捕まえては観察し、挿絵入りの本を書いた。高校生になるとSF映画をよく観るようになり、映画の特殊効果に興味を持つようになった。自分の今後の進路を考える時期に、ふと目にした洋雑誌の特殊メイクの記事が、恩師との出会いのきっかけとなる。それは、33歳だった俳優を121歳の老人に変えたメイクで、一躍有名になった第一人者のディック・スミスの技術を詳細に紹介した記事だった。見た瞬間に衝撃を受け「これをやりたい。自分の手でや

ってみたい」と思ったという。著者は英語が苦手だったにもかかわらず薫にもすがりたい思いで彼に手紙を書き、直々に指導を受けることになり、彼からの誘いでハリウッド映画界に飛び込んだ。

映画製作に関する章では、俳優とのエピソードや独自のメイクアップ方法へのこだわり、メイクの素材開発作業が紹介されている。精力的に仕事をこなす一方、撮影現場での自らの性格がもたらす精神的な苦悩も述べられている。経験を重ねるうちに、生み出す作品の映画界における存在と、個人的に評価されたいという思いに相違を感じるようになり、映画界を離れ現代美術家の道を進む決意をした。

芸術やもの作りには利害関係がなく、生きていく力を分かち合える方法だと著者は語る。芸術作品に触れる機会が増える秋。より一層、作品から伝わる創作者の想いを考えながら鑑賞したくなる。
(揖保川図書館 河部)

トピックス

※申込、問い合わせは各図書館まで



2019・第73回 読書週間【10/27(日)~11/9(土)】

標語「おかえり、^{しおり}葉の場所で待ってるよ」



★読書週間とは？

1947年(昭和22年)、まだ戦争の傷あとが残る時期、「読書の力によって、平和な文化国家を」を目標に、「読書週間」は生まれました。その後10月27日から11月9日(文化の日をはさんで2週間)に各地で講演会や図書に関する展示会が開かれるようになり、「読書週間」は日本中に広がりました。読書を生活の中に取り入れ、豊かな毎日を送るために、ぜひ図書館をご活用ください。



龍野図書館

バードカービング展

たつの市在住の伊達忠雄氏による、日本の野鳥をモデルにしたバードカービング作品を約60点展示します。

【日時】 11月12日(火)~11月24日(日)
10時~18時 ※休館日(18日、23日)を除く。

第17回 オータムフェスティバルin 龍野

ミケランジェロ ラ ドッタ マーノ
『Michelangelo:La Dotta Mano』公開

今年も龍野にオータムフェスティバルがやってきます。龍野図書館では、世界に限定33部の貴重本を一般公開します。この機会にぜひご覧ください。

【日時】 11月22日(金)・24日(日) 11時~15時

『やまのたけちゃん』 石井 桃子 文 深沢 紅子 絵 岩波書店



日曜日、たけちゃんが目を覚ますと、にいちちゃん達が落ち葉かきに出かけるところでした。ついて行こうとすると「ちいさい子どもといぬはだめ」と言われます。にいち

ちゃんは小さい時に山で野球帽を、ねえちゃんはセーターを無くしたからです。それでも行きたくてたまらないたけちゃんに、ばあちゃんがおむすびを作って持たせてくれました。犬のジョンだけが留守番です。

山に着くと、たけちゃんも落ち葉集めを手伝いました。かごがいっぱいになると、にいちちゃんが上に登って落ち葉を踏み固め、また落ち葉を入れていきます。たけちゃんがかごが倒れないように見張り役を言いつ

けられましたが、かごの番は退屈です。こっそりかごに登ると、落ち葉の上でどん！と跳ねました。そのはずみでかごは転がり、たけちゃんも一緒にごろごろどんどん！山を転げ落ちて行きました。「たすけてくれえ！」という声を聞いたにいちちゃんたちは大騒ぎでたけちゃんを追いかけますが、見失ってしまいます。その時、突然ジョンが駆けてきました。にいちちゃんはその鳴き声を頼りに探すと、落ち葉からよっつきり出ている足が見えました。皆で引っ張ると、右手にセーター、左手に野球帽を持ったたけちゃんが出てきました。

自然の中でのびのびと過ごす子どもたちの日常が、春と秋、一篇ずつ収められ、落ち着いた色彩で描かれた挿絵も、農村の素朴な暮らしを伝えています。読んであげるなら5歳くらいから。(新宮図書館 梅村)

『ミオよ わたしのミオ』

アストリッド・リンドグレーン 作 大塚 勇三 訳 岩波書店



少年ボッセは、本当の両親を知らず、意地悪な養い親のもとで鬱々とした日々を過ごしてしま^{うつつ}いました。しかしある日、黄金のリンゴを手にし、「はるかな国」へと旅立ちます。

そこは美しい音楽と花々があふれる豊かな国で、大きな白い城にはボッセの本当のおとうさんがずっと待っていました。ボッセは「はるかな国」の王子だったのです。

おとうさんの王さまとの愛に満ちたふれ合い、親友のユムユム、そして愛馬ミラミスとの出会いを経て、王子ミオは「千年も、そのまた千年も」前から定められていた運命に立ち向かいます。「外の国」を支配する、恐ろしい人さらいの騎士、カトーを倒せるのは、

王家の男の子だけだと言いつたのでした。王子ミオは、ユムユムとふたりきりながら、暗い「死の森」や洞穴を追手から逃げながら、騎士カトーの城へたどり着きます。恐ろしいときにはおとうさんの王さまが、「ミオよ、わたしのミオ」と自分のことを考えていると思うと、勇気が出ました。炎のように輝く剣を手にし、ついに、王子ミオは騎士カトーに戦いを挑みます。

のびやかで明るい「はるかな国」で過ごす日々から一転して、恐ろしい「外の国」での冒険の様子が見事に描かれ、王子ミオと一緒に旅をしている気分が味わえます。自分で読むなら小学3年生くらいから。

(龍野図書館 村上)



11月の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

★ えほんのじかん・・・絵本の読み聞かせ、わらべ歌など

龍野図書館 【対象】1～3歳児、保護者

16日(土)
11時～11時20分
『たまごのあかちゃん』他

揖保川図書館

【対象】1～2歳児、保護者

2日(土)・21日(木) 10時30分～10時45分
『があちゃん』他

【対象】3～4歳児、保護者

9日(土)・16日(土) 10時30分～10時50分
『わにわにのおふる』他

新宮図書館 【対象】2～4歳児、保護者

10日(日)・24日(日)
11時～11時20分
『くろねこかあさん』他

御津図書館

【対象】1～4歳児、保護者

10日(日)・17日(日) 11時～11時20分
『しんせつなともだち』他

【対象】5歳児～

10日(日)・17日(日) 11時30分～11時50分
『プンクマインチャ』他

★ おはなしのじかん【対象：5歳児以上】・・・昔話などの語り、絵本の読み聞かせなど

新宮図書館

9日(土)・30日(土)
10時15分～10時45分
「あべこべ・うさぎ」他

揖保川図書館

2日(土)・9日(土)・16日(土)
11時～11時30分
「マーシャとくま」他

★ 読書会【対象：一般】・・・本を読んで感想を話し合う

龍野図書館

8日(金)
10時～11時30分
『昨夜のカレー、明日のパン』
木皿 泉 著

揖保川図書館

1日(金)
10時～12時
『火定』
澤田 瞳子 著

御津図書館

20日(水)
13時30分～15時30分
『人生は、だましまし』
田辺 聖子 著

★ 子どもの本を読む会【対象：一般】

龍野図書館

14日(木) 10時～11時30分
『風にのってきたメアリー・ポピンズ』 P・L・トラヴァース 著



館内特集・展示 (一部紹介)

龍野図書館

働く本

11月23日は勤労感謝の日。それに合わせて、仕事がテーマの小説、伝記、仕事に役立つ本などを集めました。「働き方」が変わり始めている今、働くことについて、図書館で考えてみませんか。

【期間】11月29日まで

新宮図書館

人生後半、 これからの暮らし方

仕事や子育てが落ち着いたらやりたいと思っていることはありますか？旅に出る、趣味を極める、実家を片付ける、ペットを飼うなど、人生のセカンドステージをどう生きるか、ヒントになる本を集めています。

【期間】11月30日まで

揖保川図書館

音楽と触れ合う

芸術の秋です。クラシックから伝統音楽まで多彩なジャンル、楽器の仕組みや演奏方法、音楽がストーリーの軸になる小説など音楽に関する本を集めました。音楽の奥深さに触れてみてください。

【期間】11月30日まで

御津図書館

ことばって面白い

同じ内容でも翻訳する人によって本の印象が変わったり、ことばづかいで人間関係が強まったりこじれたり様々に表情を変えることば。オノマトペ、はやりことば、語源、語彙など思考や伝達的手段としてヒトを人たらしめることばの奥深さを楽しんでください。

【期間】12月27日まで